

- 10人の音楽家による“時間の音”がここにあります -

“時間”をテーマに音を綴る深遠かつ抒情に満ちたアンビエント・サウンド。全曲書き下ろし。

Whereabouts
RECORDS

4月6日発売

ambient of TIME / V.A.

個性的なサウンドを創造する10人の音楽家が“時間”をテーマに音を綴るコンセプトアルバム・コンピレーション・アルバム。
心地良きの向こう側に見え隠れする、深遠なる音の結晶。あなたの時間はどんな音ですか？

ウェアラバウト・レコーズの第5弾リリースは、“時間”をテーマにしたアンビエント作品です。

有形、無形？概念、変化？

“時間”は我々人間の行動のすべてを支配する一方で、その捉え方、個々の時間は人により全く違う意味を持って存在します。

好きな時間、安らぐ時間、不安な時間、時間による変化、記憶、忘却・・・

..... 時間を音にしたら？

そんな閃きがアルバム制作のきっかけになりました。

10人の音楽家が“時間”に想いを巡らせ書き下ろした全10曲は、静謐(せいひつ)な残像を重ねながらゆるやかな時間の流れを創り出します。

様々なアプローチによって作られた深遠かつ抒情に満ちたアンビエント・サウンドをご堪能ください。

全曲がこのアルバムのために書き下ろされた未発表曲です。



品番 WHACD-5

販売価格 1,980円(税込)

JAN 4582358980051

【track list】

01. el fog / Time, Memory
02. Psychedeism / dawn chorus
03. 浅野達彦 / Quartz
04. radi strand / absence of time
05. atrem / under cover of winter's night
06. Yu Kadowaki / Tokinokane
07. Mujika Easel / Le rêve de l'après-midi
08. naph / music for etv
09. 横川理彦 / 夜の川に沿って Au long de la riviere nocturne
10. Doi Itsuqi / Hakalame

アルバム・コンセプト

我々は時間という概念の基に生きている。

時間 - すべての生き物、そして宇宙までもが時間に支配されているともいえるが、それは変化であって時間ではない -

時間は絶対的な機軸として存在する一方、その瞬間は人によって全く違う意味を成して存在している。

アンビエント・オブ・タイム - 時間の環境

人は時間をどのように捉えているのだろうか。

そして、それを音にしたらいったい……

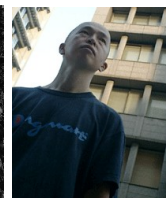


el fog

Photography by AOKI takamasa



Mujika Easel



浅野達彦



横川理彦

■参加アーティスト

“時間”という概念を“音”で表現するコンセプトアルバム。ベテランから新人まで10人のアーティストが作り出すその音は、アンビエント、エレクトロニカ、ニューエイジといった既存のサウンドには収まりきらないアーティストィックな音の結晶と呼べるものです。

ベルリンを拠点に活動する el fog は、ヴィブラフォンをメイン楽器としてダブ、ジャズ、エレクトロニカ、ヒップホップ、クラシックなどを消化した独自の世界感を追求するアーティスト。昨年は Jan Jelinek とのコラボレーションプロジェクト Masayoshi Fujita and Jan Jelinek を実現し、レーベル Faitiche よりアルバム “Bird, Lake, Objects” をリリースした。

「映系 (エイシ)」の 1st album 『awaawa』で繊細且つ独創的な音の描写を見せた Mujika Easel。そのサウンドは NY で 12K レーベルを主催するテイラー・デュブリーの目に止まり、彼自身の手によるリコンストラクト・アルバム 『Every Still Day』の制作に至った。2010 年には自身のレーベル dear Air を立ち上げ精力的に活動している。

英国のレーベル Geist から熱烈なオファー受け実現した 『Genny Haniver』やデヴィッド・シルヴィアンのリミックス・アルバム 『Blemish Remixes』でも抜群のサウンド・センスを発揮した浅野達彦。4-D、P-Model などの活動で知られるベテラン横川理彦といった個性溢れるアーティストがそれぞれのアプローチで音を綴ります。

さらには、昨年デビューしたジャンルレス音楽製作ユニット atrem や複雑なビート & ジャジーなアプローチを得意とするエレクトロニカ・アーティストの Psychedeism、RdL、All The Frogs Are Our Weekend などでも活動する naph の作品も秀逸。そして、radi strand、Yu Kadowaki、Doi Itsuqi の 3 組の新人も若き才能を存分に発揮したサウンドで堂々のデビューを果しました。



Time, Memory

記録された音
そこにあった時間
音の持つ記憶

時間の断片が織りなす、
時間と記憶についての音楽

el fog

ベルリンを拠点に活動する藤田正嘉によるソロプロジェクト。ヴィブラフォンをメイン楽器として演奏・作曲。ダブ、ジャズ、エレクトロニカ、ヒップホップ、クラシックなどを消化し、独自の世界感を追求する。

2007年に英 Moteer レーベルより 1st アルバム "Reverberate Slowly" を、2009年には 2nd アルバム "Rebuilding Vibes" を日本の Flau よりリリース。

また、Jan Jelinek とのコラボレーションプロジェクト Masayoshi Fujita and Jan Jelinek でも、2010年に Jan Jelinek のレーベル Faitiche よりアルバム "Bird, Lake, Objects" をリリースしている。

[Masayoshi Fujita / el fog | flau | myspace | faitiche](#)



dawn chorus

暗と明の境目である夜明けはもともと人間の存在感が薄い時間。まだ汚れていない空気の中で、警戒を解いた小鳥たちが羽ばたき、さえずり、戯れる。地球の回転が太陽を押し出して、刻々と表情を変えながら持続する時間。

Psychedeism

東京を拠点に活動する竹内一弘のエレクトロニカ・ソロ・ユニット。強く、そして複雑に絡むビート、ジャジーなモード感、緻密に配置される電子音、ノイズ、さらにはミニマル的アプローチやニューエイジ・テイストの繊細な表現が渾然一体となり、独創的なサウンドをデザインする。

このユニークなサウンドは、自身のルーツであるブラック・ミュージックやジャズ、ロックの要素をコンピュータ内で緻密に構築することで生み出されるもので、1st アルバム『White Stone』には、そのカラフルなエレクトロニカ・サウンドが散りばめられている。

[psychedeism | myspace](#)



Quartz

戦前のカラー映像をみて、今とかわらずカラフルで新しいことにびっくりした。京都のお寺の門に、江戸時代のイタズラ書きを見つけてびっくりした。時間が経っても今日のできごとのよう。時計みたいにカチコチ進む。一瞬止まったかと思ったら何も変わらず動いてた。

浅野達彦 (Tatsuhiko Asano)

1966年岐阜県生まれ。14歳からギターと自宅録音をはじめ、東京藝術大学在学時に絵画を先攻する傍ら本格的にバンド活動やカセット MTR による多重録音を開始。1996年に MOODMAN が主催していた 7 インチレーベル、「M.O.O.D/donut」から一人多重録音によるシングル『bonjour』でソロデビュー。その後 TRANSONIC、Daisy World 等、多数の国内コンピレーションでソロ作品を発表する。また GPP、パシフィック 231 などのユニットにギタリストとして参加。2000年には任天堂ゲーム「巨人のドシン 1」のサウンドトラック、『ドシンの跡を追って』を発表。2001年、『bonjour』を聴いたアレック・エンパイアから熱烈なオファーを受け、彼の主宰する英国のレーベル Geist から初のフルアルバム『Genny Haniver』をリリース。2004年には「クサマヤヨイの前衛ファッションショー！」の音楽を担当。2005年にはデヴィッド・シルヴィアンのリミックス・アルバム、『Blemish Remixes』に参加。2008年待望の 2nd アルバム『Spacewatch』を AKICHI RECORDS よりリリース。またバンド「浅野達彦グループ」として都内を中心にライブ活動中。メンバーは浅野達彦 (G、エレクトロニクス)、フタキダイスケ (G)、鎌田将 (B)、臺太郎 (Dr)。

[TATSUHIKO ASANO](#)



absence of time

今日が終わり、明日が始まる気配もない、空白の時間。

radi strand

ジャズ、クラシック、エレクトロニカ、それぞれ趣向の異なる楽器隊が集まり、ボーカル零エコーのアンビエントな声を中心にポップスに新しい可能性を見出すべく 2010年に結成。現在は東京をメインに、関西方面のツアーを行なうなど精力的に活動中。

零エコー (Vocal, Poetry)
渡部裕二 (C.guitar, E.guitar, Piano)
広瀬達也 (W.Bass, E.Bass)
saigi (Drum, Effects)

[radi strand](#)



under cover of winter's night

「一人で部屋を出て、二人で部屋へ戻る」
はしゃぐ気持ち、安らぎ、緊張感、そして幸福な一時は何故かあつという間に過ぎていく。
そんな時間のイメージ。

atrem

バンド・サウンド、フィールド・レコーディング、エレクトロニカ、弾き語りなど様々なアプローチにより作られた楽曲で atrem 固有の質感でアウトプットする嶋龍一と上村 裕介によるジャンルレス音楽製作ユニット。

2010年7月にリリースした 1st アルバム『flight』では、アンビエントやニューエイジ、そしてポストロック、エレクトロニカ、ミニマルの要素をも巧に消化してオリジナルの世界観を表現している。

programming : atrem guitar : 嶋龍一 bass : 上村裕介

[atrem official website](#)



Tokinokane

ふと小さい時に住んでいた川越の「時の鐘」の音を思い出す人間は無限に進む時間軸からある「音」によって区切りを創り自らの認識ができる「時間」を創りだしている鐘によって変化する音風景

[myspace](#)



Le rêve de l'après-midi

寒い季節の午後の太陽の光を浴びながら眠る時、私は現実と夢の世界が反対になるような錯覚を覚える。部屋の中心辺りまで差し込む光によって世界は真っ白に、身体はその目映い白い光につつまれながら、黒い残像(眠るまでに現実で起きた人生の断片の様なもの)に色々な色が降り注ぐのをぼんやりただ眺めている。そんな時間。

Mujika Easel

1978年、大阪生まれ、幼少から音楽に親しむ。いくつかのバンド活動を経た後、凝縮された時間の中で動く子供のような生き物「映糸(エイシ)」を結成、アップライトベース&ボーカルを担当。2003年11月に Mldi creative/noble より1st album『awaawa』をリリース。2005年6月に Mldi creative/noble よりNYの音響アーティスト、Taylor Deupree による1st album『awaawa』のリコンストラクト・アルバムがリリースされる。

2006年に音楽レーベル「AnN-shitsu Records」を立ち上げ、1st solo album『Love and Realism』をリリース。その後、長らく離れていたクラシック音楽に立ち戻り、2nd Albumの制作と並行して、フーガ、オーケストレーション、オーボエなどを学び新たな音楽性を探り続ける。

2009年、dear Air を立ち上げ、その第一弾として2010年9月に Mujika Easel 2nd Album『海辺より』をリリース。同年10月、イタリア人アーティストとのプロジェクト作品『Autumn is Coming, We're All in Slowmotion』Andrea Ferraris/ Matteo Uggeri with Mujika Easel and Andrea Serrapiglio を hibernate よりリリース。

クラシカル、音響、即興性を持つサウンドと独自の声の佇まいは、時代、年代を問わず歌ものとして聴く人の心に響く音楽を届ける。その歌声は静謐であり力強く、美しき問いかけのような響きをたずさえて存在する。

[dear Air](#) | [Mujika Easel](#)



music for etv

静かな秋の海。コロログたちが秋のコンサートを行う。フリーな演奏で etv(extra terrestrial vehicle) を呼んでいる楽団。etv がくるのか。こないのか。全ての事象は粒子単位の意識のなかでおこなわれているためくるのか、こないのか自体、誰もわからないし確認もできない。唯一自己の感覚だけがそれを捉えることができるのだ。

naph

RdL"Decade Away From Home" が P-VINE より2009年7/4リリース。 ミナクマリ "RASA"Engel'sEgg では楽曲提供。アレンジ、ミックスなどで全面的に参加。 個人名義の naph では、現在アコースティック楽器を中心としたポストエレクトロニカサウンド、倍音を多く含んだミニマルサウンド。再構築楽曲をテーマとして、ナチュラルな音響作品を制作。 naph ファーストアルバム [Wind Mill]2010年5/19pastel records よりリリース。2008年 DUB 音響エクスペリメンタルバンド "All The Frogs Are Our Weekend" 結成。ファーストアルバム [Flop]2010年6/16kiti レーベルよりリリース。 soup でのリリースパーティー、ライブ即興演奏 [Frogs In The Soup]2010年9/4 phono レーベルよりデジタルディストリビューションリリース。 SPEKK,Staubgold,Weather など様々なレーベルにコンピレーション参加。 Club Quattro,On Air Nest,Super Delux など様々なライブハウスに出演。 Turquoise,phono レーベル主催。マスタリング、ミックス、音楽制作業務。 studio ambiencephono を下井草にて運営。

[ambiencephono](#) | [myspace](#)



夜の川に沿って

Au long de la riviere nocturne

もうスイスの国境に近いフランスの山中、クレポーでの即興演奏。作っているうちに、さまざまな場所に移動していた旅行中の記憶、ぼんやり眺めていた窓の外の景色が徐々に脳内のスクリーンに映し出された時間の投影。

横川理彦 (tadahiko Yokogawa)

4-D、P-Model、AfterDinner、Metrofarce、Meatopia などを経て、現在ソロ。電子楽器と各種生楽器を併用する独自のスタイルで、海外でのコンサート・プロジェクトも多数。最新プロジェクトは Red Rails。

[Red Rails](#) | [pick](#)



Hakalame

伝えていくことが時となる。

Doi Itsuji

1989年兵庫県神戸市出身。現在は千葉県在住。大学にて生物学を学ぶ。音そのものよりも、音の存在しない時間を重視して作品を制作している。2010年、個人レーベル小豆腐れこーどを設立し、海と子宮をテーマとした自主制作 CDR "Uonotayu" を発表。

[Itsuji Doi](#)